

《株式会社エフエム東京 第398回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 25 年5月7日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 6 名(社外 6 名 社内 0 名)

◇出席委員(5 名)

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	香 山 リカ 委員
西 田 善 太 委員	

◇欠席委員(1 名)

秋 元 康 委員

◇社側出席者(11 名)

富木田 代表取締役社長  
唐 島 専務取締役  
石 井 常務取締役  
黒 坂 常務取締役  
平 取締役 営業局長  
藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長  
長 澤 常勤監査役  
村 上 執行役員 編成制作局長  
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー  
宮 野 編成制作局 編成制作部長  
高 橋 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 18 分)

スカパー!日曜シネマテーク  
毎週日曜日 15:30~15:55

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎「EARTH×HEART LIVE 2013」を開催

TOKYO FMをはじめとする JFN38 局は、1990 年に、“EARTH CONSCIOUS ～地球を愛し、感じる心”のメッセージを掲げて地球環境保護を呼びかける世界中継コンサートをスタートしました。

2011 年の東日本大震災を契機に、“EARTH CONSCIOUS”とともに、TOKYO FM と JFN のステーション・キャンペーンテーマである“HUMAN CONSCIOUS～生命(いのち)を愛し、つながる心”をメッセージに加え、コンサート名を「EARTH×HEART LIVE」といたしました。

今年は、4 月 17 日、NHK ホールから、環境問題や国際政治において様々な問題を抱えるアジア圏への発信を特に重視して、台湾の大物バンド Mayday、日本からは flumpool が出演しました。台湾の Mayday は、台湾と中国では 10 万人を越えるコンサート動員を誇り、日本の flumpool は、台湾、香港、シンガポールでも人気急上昇のバンドです。

両者の競演は、ひとつの楽曲が日本語と中国語交互で歌われ、客席では二つの言葉が飛び交うなど、客席とステージが一体となった熱気あふれるパフォーマンスとなり、NHK ホール満員 3,500 名の若い観客とともに、国境と言葉を越えた発信となりました。これまでどおりにアメリカ、ヨーロッパなど世界の FM 局で今後放送されていく中、今回は特にアジア地域の FM 局を中心とした放送局への中継を強く呼びかけ、台湾の UFO FM、韓国の MBC、中国の北京電台ほか 26 局ネット、インドネシアの Kei FM 102.3、インドの Music FM、Radio Plus などでの放送が決まっています。日本の楽曲放送が制限されている韓国と北京電台ほか中国 26 局でのオンエアは、現在の国際関係において大きな意義を持つものと考えます。

このライブの様子は、国内ではアースデーである 4 月 22 日(月) 19:00～21:00 に、TOKYO FM をはじめとする JFN 全国 38 局で放送しました。



【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○他局なのに NHK ホールがよく借りられた。

○これまでの日本武道館からライブの規模が縮小された印象だが、そういうことなのか？

■武道館が 8,000～9,000 人のキャパシティに対し、NHK ホールが 3,500 人と、会場の大きさは違ったが、位置づけとしては何ら変わっていない。会場では募金活動を行ったり、チケット代の中からも寄付を行った。

■以前は、「アースデー・コンサート」として、開催は 4 月 22 日の生放送、会場は武道館と固定していたが、それがブッキングのハードルにもなっていた。ブッキングの自由度を高めるために切り替えた。今後もライブの開催日と会場は固定しない形での実施を予定している。

議題2: 番組試聴 (約 18 分)

【番組名】 スカパー！日曜シネマテーク  
パーソナリティ: グレゴリー・スター、美波



【放送日時】 2013 年 4 月 14 日(日)・28 日(日)  
15:30~15:55

【番組概要】

2013 年 4 月よりスタートした新番組です。

日曜午後に現れる、ラジオの中の名画座「シネマテーク」。

「シネマテーク」とは、優れた映像作品を未来に伝えているフランスのフィルム・アーカイブ。

この番組では、ラジオの中の「シネマテーク」に毎週、映画好きたちが集い、洋画・邦画・SF・アニメ、あらゆるジャンルの映画について語り合います。作品の見どころはもちろん、そこに描かれるライフスタイルやファッション、クルマ、インテリア、食事、ちょっとした仕草、台詞回しなど、さまざまな角度から映画の魅力をひもときます。

パーソナリティーは、元プレミア編集長のグレゴリー・スターと、女優・モデルの美波が務めます。

本日お聴きいただくのは、4 月 14 日(日)・28 日(日)の放送のダイジェストです。

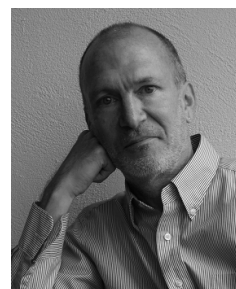
毎回2本の映画を紹介しておりますが、今回の1本目は、4 月 14 日(日)放送の(株)ライトパブリシティ副社長の杉山恒太郎さんの紹介する「雨月物語」(1953 年/日本/監督: 溝口健二/出演: 京マチ子/森雅之/ほか)。

2本目は、映画監督の梁英姫(ヤン・ヨンヒ)さんが紹介する「エターナル・サンシャイン」(2004 年/アメリカ/監督: ミシェル・ゴンドリー/出演: ジム・キャリー/ケイト・ウィンスレット/ほか)です。

グレゴリー・スター

映画雑誌「プレミア日本版」の元編集長。映画評論家。

1970 年に来日。建設作業員や幼稚園の先生、バンドマネージャーなど、さまざまな職を体験。映画関係の初仕事は「男はつらいよ」シリーズの英語吹き替え版の声(さくらの夫・博役)。2002 年より、TOKYO FM「SATURDAY WAITING BAR AVANTI」では、バーテンダー・スタン役を担当。





美波(みなみ)

女優。ファッションモデル。1986年9月22日生まれの26歳。

父親はフランス人で母親は日本人のハーフ。雑誌やCMでのモデルのほか、舞台、映画などで女優として活躍中。

### 杉山恒太郎

広告制作専門会社(株)ライトパブリシティ代表取締役 副社長。

クリエイティブディレクター。電通 常務取締役、顧問を経て、2012年4月ライトパブリシティ代表取締役 副社長に就任。

カンヌ国際広告祭ではフィルム部門で2年、サイバー部門で1年、それぞれ国際審査委員。

2002年FIFAワールドカップ、2005年愛知万博ではクリエイティブディレクターとして招致に寄与。

2002年 東京インタラクティブ・アド・アワード(TIAA)の創立に関わり、第1回～第5回の審査委員長。

インターネット広告推進協議会(JIAA)理事長(2011年・2012年)

ACC・CMフェスティバル実行委員長、テレビCM部門の審査委員長(2011年・2012年)

外務省国際漫画賞実行委員会委員、エンジン01会員

その他、東京藝術大学大学院 映像研究科 特別教授、金沢美術工芸大学 非常勤講師、立命館大学 非常勤講師、中国 吉林动画学院 客員教授 等



梁英姫(ヤン・ヨンヒ)

映画監督。大阪生まれの在日2世。教師、劇団女優、ラジオパーソナリティ、ドキュメンタリー映像作家を経て映画監督に。

1995年、30代になってからビデオカメラで家族の映像を撮り始める。同時に、アジアのいろいろな国を訪ねてニュース映像や、在日をテーマにしたテレビドキュメンタリーなどを作ってきた。2005

年、北朝鮮に住む家族との絆を描いた初の長編ドキュメンタリー『ディア・ピョンヤン』がベルリン映画祭などで受賞。2012年2月、『かぞくのくに』が第86回キネマ旬報ベスト・テンで日本映画の1位に選ばれたほか、第62回ベルリン国際映画祭でC.I.C.A.E(国際アートシアター連盟)賞、第67回毎日映画コンクール脚本賞、第55回ブルーリボン賞作品賞等を受賞。

### 【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○映画の話映像抜きで語る、難しいチャレンジだと思う。映画というとハリウッドのイメージが強いが、これはフランス色の強い映画番組で、映画を芸術や文化財として扱う

イメージが、今後どのように続いていくのか気になる。

今回の内容に関しては、ゲストがどんな作品を選ぶのかという興味や、個人的なエピソードもバランス良く組み込まれていたもので、映画から離れてしまってもゲストへの興味で聴くことができた。

映画の話と、映画にまつわるご自分の話と、うんちくを語るような話をどうやって織り交ぜていくかのバランスがカギになるのではないかと。

○FM で映画番組をやるのは難しいと思う。テレビの名画座のように、映像も少しあってその話を登場人物が案内するならわかるが、見ていない人に昔の映画がどうだったと言われても、今それを見るチャンスも限られているし、時代的にこの番組が面白いかどうかわからない。

○ラジオの中の名画座っていう考え方は面白いと思ったが、期待外れだった。25分間で2本も紹介するのは多すぎる。また、美波さんは紹介された映画を見ていないような進行の仕方で、ゲストの話を引き出していない。また、何の作品についての話なのか、ゲストの話から分かりにくい。これを聴いた人が、言及された作品を見てみようと思えるか疑問だ。何らかの手を入れた方がいい。

○日曜の午後に映画を題材にしたおしゃべりが聴けるのは嫌ではないと思うが、一回の番組に2組ゲストを入れることには違和感がある。短い時間の中で語りたいことがいっぱい、聴いている方も受け入れづらい。内容はNOではないが、ゆったりした感じがほしい。ゲストは1人にして、その人が1~3本の映画を紹介し、その人の魅力と相まって、選ばれた映画を見たくなるような感じがいい。また、音楽が少ないと感じたので、もう少しトークと音楽のバランスをとってはどうか。

○映画評論家ではなく、杉山恒太郎さん、梁英姫さんといった人選は面白く、興味深い話が聴けたが、途中で何の映画の話をしていったか分からなくなった。トークの間にも作品名を繰り返す必要がある。映画を見たもの同士の共感はあるが、ネタバレを辞さない映画評は難しい。

成長期待の番組ではあるが、ゲストが最後にもう1本薦めるなど、共感できるゲストの別のおすすめ映画を教えてもらう楽しみがあってもいい。

グレゴリーさんはよく映画を知っていて、美波さんは入門者という立ち位置で、そこに映画通のゲストが入れば、今後いいバランスになっていくのではないかと。

■美波さんは、本当は映画を観ていても、観ていないリスナーを置いていかないために、あえて観ていない目線の役割を担っていただいている。また、収録形式としては一人のゲストの方に3本分のお話をしていただき、それをストックした上で、時にはスカパーの放送タイミングや組み合わせを図りながら2本を放送に載せるサイクルで進め

ている。また、映画ファンではない人にも映画を観るきっかけとなることを目指し、なるべく複数、ジャンルの偏りなく紹介することを心がけている。

#### 5. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「JUGLIS RUN GIRLS SUNDAY」  
5月26日(日)6:00～7:30放送
- ② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

#### 7. その他

次回審議会を、6月4日(火)に開催することを決めた。

また、人事異動により、5月より村上執行役員が編成制作局長となり、放送番組審議会事務局長も務めることとなった。